



## PROFILE

ホテルラ・スイート神戸ハーバーランド 総支配人

### 檜山 和司氏

Kazushi HIYAMA, General Manager, HOTEL LA SUITE KOBE HARBORLAND

ひやま・かずし。神戸出身。3ツ星レストラン「アラン・シャペル」などで実績を積み1996年度第1回日本メートル・ド・テルコンクール優勝。平成26(2014)年度兵庫県技能顕功賞受賞、「代表的な技能者」に選出。15年「メートル・ド・テル」として初の神戸マイスターに認定。同年ヨーロッパで最も権威のあるフランスの「クープ・ジョルジュ・パティスト協会」より特別栄誉賞を授与。17年厚生労働省より「平成29年度 卓越した技能者(現代の名工)」をサービスパーソンとして歴代2人目となる受賞を果たす。国際メートル・ド・テル連盟所属、全日本メートル・ド・テル連盟会長

ラ・スイートの語源は「組曲」。個々の力が重なり合いおもてなしの楽曲を奏でる



## 時代を超えて語り継がれる 最高のサービスを磨く

ホテルラ・スイート神戸ハーバーランドは究極のプロ集団でもある。開業当初からその顔を務めるのが総支配人の檜山和司氏だ。昨年に厚生労働省より「現代の名工」をサービスパーソンとして日本で2人目、西日本で初受賞した檜山総支配人の、これからのラ・スイートへの思いとは。

### まねできない魅力の集合体

開業当初、ホテルラ・スイートをほかにまねのできない特別なホテルにするため「ラ・スイート100の魅力」を抽出しました。例えば、全室オーシャンビューで神戸の素晴らしい風景が見渡せる。70室という限られた室数には70㎡の広さがあり、大きなジャクジーが完備している。広々としたテラスではゆったりと神戸の風を浴びながらくつろいでいただけるといったハードの魅力です。

そして、何よりもスタッフがプロ集団であること。わたし自身1996年に行なわれた第1回日本メートル・ド・テルコンクールのチャンピオンであるのをはじめ、レストランでもサービス調理ともに業界トップばかりを呼び寄せました。わずか30席のレストランにソムリエ有資格者が相当数いるというドリームチームでしたから、当初から異色のホテルとして話題性もあったと思います。

リーマンショック直後というマイナスからの開業で、すぐに追い打ちをかけるように神戸で新型インフルエンザが発生してキャンセルが相次ぐといった苦境に見舞われました。だからこそ皆が奮発し、やがてじわりとくちコミで評判が広がり始め、個性豊かな才能のあるスタッフそれぞれにお客さまがつくという現象も起きました。こうしたホテルはほかに前例がないものだったと思います。

### 一人一人の個性がブランド

ラ・スイートの最大の魅力は人財です。これまでの10年を支えたのが人なら今後の重要な柱となるのも人の存在です。皆それぞれがブランドになりなさいと若手に話をします。わたしは檜山というブランド、AならAブランドというように、個性あるブランドの集合体が魅力あるホテルブランドになります。わたし自身これまでさまざまなサービス技能に関する賞をいただき、2012年からはメートル・ド・テル連盟会長を務め、延べ2500人を超えるプロの方々を指導してまいり、「現代の名工」をいただいたのも業界発展と食文化に大きく貢献をしたと評価された結果であると思います。そうした意味でこれからも率先垂範してこの仕事に従事される方々の指標となって後進の人材育成と地位向上に尽力し、今以上に自分を磨き魅力のあるホテリエになっていきたいと思っています。

### 限界を決めずにチャレンジ

可能性を持つ若い方々はたくさんいます。自分の限界を決めつけず、失敗を恐れずにいろいろなことにどんどんチャレンジしてほしいと思います。アグレッシブさはまだ見ぬ自己の能力を発見するきっかけにもなり、人生を大きく切り開くことにもつながるはず。毎日では出会いの連続です。一つ一つがパーフェクトを目指し、お客さま

の一生に残るような感動できるサービスを目指してほしいと思います。

われわれの仕事は人を幸せにします。かつてフランスで「フランス人はなんとグルメで食いしん坊で、何より人生をとことん楽しむのにたける人種であることか」と感心しました。実際にわたし自身、レストランで「今ここで命絶えてもいい」と思えるくらいに幸せな瞬間を体験しました。料理がおいしいだけでなくすてきな空間があり、会話も何もかもすべてが素晴らしく、今でも思い起こせば目頭が熱くなるほどのものです。

一生涯の脳裏に刻まれるサービスがこの世の中には必ず存在します。そういった記憶に残る瞬間が人間には必ずあるのだから、それをお客さまにご提供し、いつまでも語り継がれるサービスの瞬間を目指してほしいと思います。わたし自身それを目指し極めようと努力を続けた結果が「現代の名工」の受賞にもつながっていると思います。



日本を代表するサービスパーソンの存在はスタッフにとって大きな目標の一つに